【主題名】人間の尊さ・大切さを考える　内容項目　「Ｄ－(19)　生命の尊さ」
【教材名】人間の命とは－人間の命の尊さ・大切さを考える－（東京書籍　新しい道徳３）
＜あらすじ＞意識がなく生命維持装置で生きているカレンさんの延命治療を止めるよう両親は申し出るが，主治医と裁判所からは許可が出なかった。その後，最高裁で許可が出るが，装置を外してからも約10年間生き続けたという尊厳死を扱った教材。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解
生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重するという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握
生命の尊さについては，理解できるようになっているが，尊厳死を含む生命倫理について考える機会はほとんどない。

☑ 本時のねらいを設定する

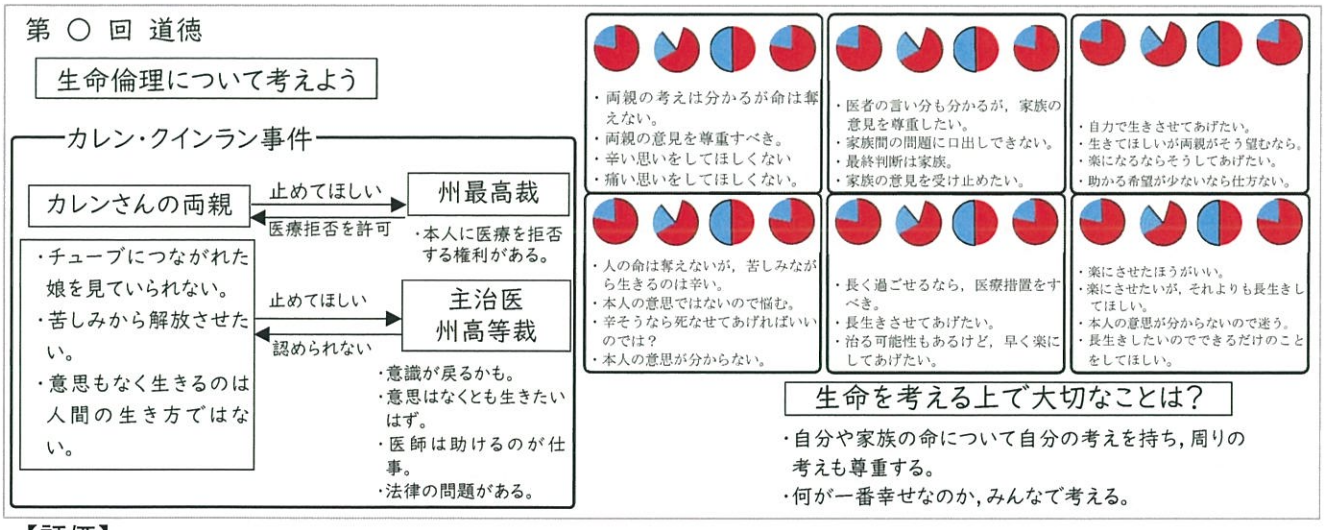
判断力　**心情**　実践意欲　態度

生命倫理について様々な立場から考え，自他のかけがえのない生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	主な学習活動　○主な発問（◎中心発問）	考え議論する道徳ポイント集
導入	1　本時の教材に興味・関心を持つ。 ・尊厳死についての日本と海外の解釈や法律の違い等について知る。 2　課題をつかむ 生命倫理について考えよう。	導入の工夫
展開	3　資料の範読を聞き，内容をつかむ。 ○　カレンさんの両親は，なぜ，医療措置を打ち切るよう求めたのでしょうか。 ○　主治医が反対した理由は，なぜでしょう。 4　グループで意見を交流する。 ○　あなたは，どうすべきだと思いますか。 5　資料に戻り，考えを深める。 ◎　生命維持装置を外した後，カレンさんは何を考えていたのでしょうか。	展開の工夫 多面的・多角的
終末	6　命についての理解を深める。 ○　生命を考える上で大切なことは何でしょうか。 ・「厚生労働省のアンケート」を紹介する。	終末の工夫

【板書計画】



【評価】
生命倫理の理解を基に，自他の生命の尊重について，問題解決的な学習を通して，多面的・多角的に考えようとしていたか。

第３学年道徳科学習指導案

日　時　　令和○年○月○日（○）
授業者　　○　　○　　○　　○

１　主題名

人間の命の尊さ・大切さを考える　　「D-(19)　生命の尊さ」

２　ねらいと教材

(1) ねらい

生命倫理について様々な立場から考え，自他のかけがえのない生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

(2) 教材名

「人間の命とは－人間の命の尊さ・大切さを考える」（東京書籍　新しい道徳３）

３　主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

生命の尊重については，「思いやり，感謝」「家族愛」「相互理解，寛容」等，様々な内容項目との関連があり，小学校段階より，そのかけがえのなさについて理解を深めている。中学校段階では，それに加えて，生命の連続性や有限性，偶然性についても生命体の組織や生命維持の仕組みの不思議などから，改めて考えさせることができる。現代においては，科学技術の進歩により生命倫理に関する現代的な課題も出てきている。現代的な課題を取り上げ，多様な考えを交流することで生命について多面的・多角的に捉えることにより，より一層，生命の尊さについて理解が深まっていくものと考える。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

「生命の尊さ」について，自分の生命のみならず，他人の生命や動植物をはじめとするすべての命を大切にしなければならないことは，道徳科を中心に保健体育や理科の生物分野等において関連付けて指導し，理解を深めている。しかし，科学技術の進歩によって新たに課題となっている生命倫理については関心が低く，考える機会も多くない。人間の誕生から死に至るまで，科学技術や医療の進歩によって様々な課題があることについて触れ，本題材で扱う尊厳死を基に，生命の尊さについて改めて考えさせ，自他のかけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本題材は，カレン・クインラン事件という，一人の女性の死をめぐって裁判で争われた事件の概要が紹介されている。生命維持装置によって生かされている状態のカレンさんの医療措置を打ち切るべきかどうかという問題に対して，両親と主治医，裁判所の意見が異なっている。そこで，それぞれの立場に立って考えさせることで，生命に対して何が大切なのかを深めていくことができると考える。生命倫理については，体外受精や出生前検査，クローン技術について等，尊厳死以外にも様々な技術と課題があることについても触れ，理解を深めたい。その上で，生と死に科学技術や医療技術がどこまで関わり，その際，どのような考えが必要なのか理解を深めさせたい。

4　学習指導過程

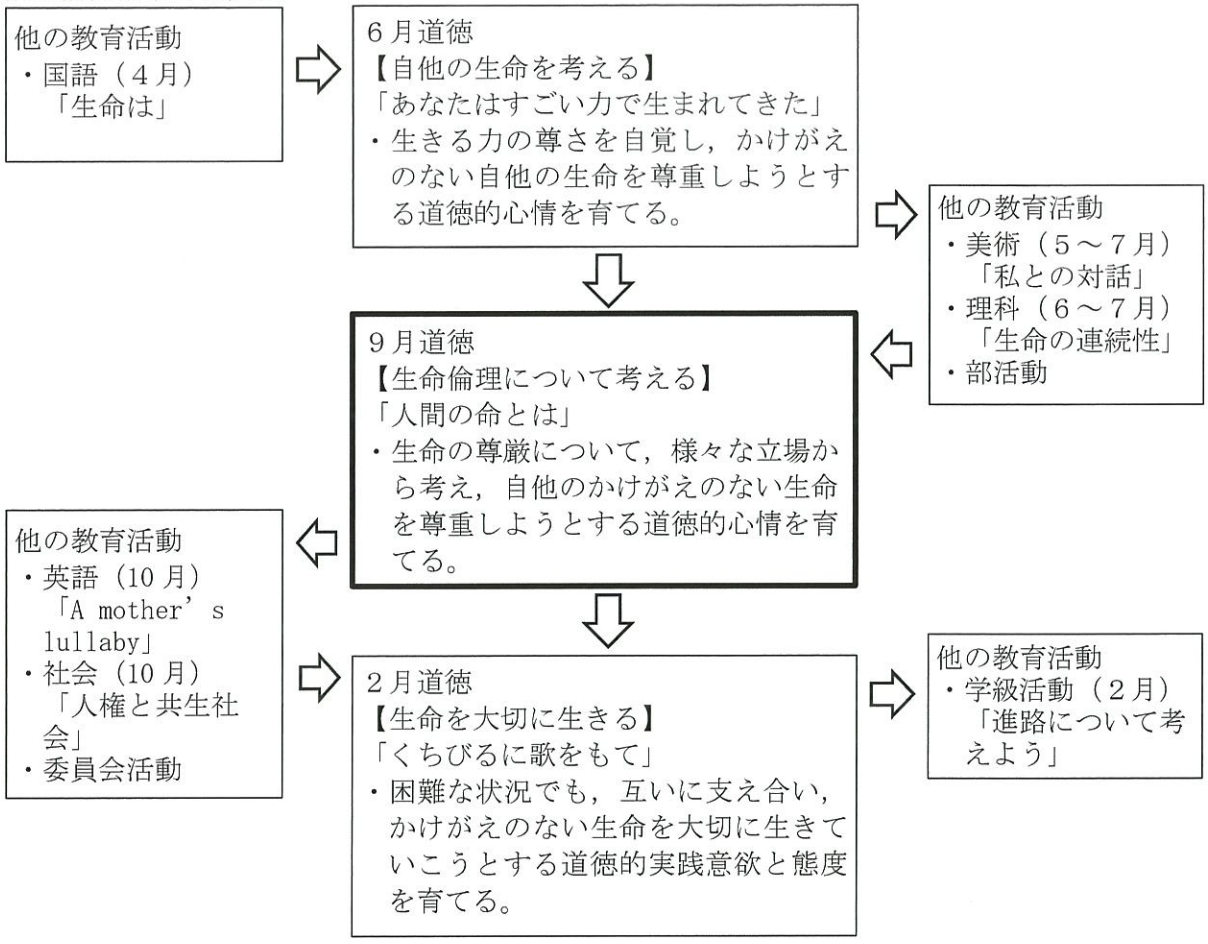
	学習活動 ○主な発問（◎中心発問）・予想される反応	指導上の留意点
導入5分	1　教材への興味・関心を持つ。 2　課題をつかむ。 生命倫理について考えよう。	・生命倫理については，聞いたことがない生徒が多いと思われるので，スライドにまとめ，簡潔に確認をする。 ・ＩＣＴ機器を活用することにより，興味・関心を高める。
展開40分	3　資料を読み，登場人物の心情を捉える。 ○　カレンさんの両親は，なぜ，医療措置を打ち切るよう求めたのでしょうか。 ・チューブにつながれて生きている娘を見ていられない。 ・苦しみから解放させてあげたい。 ・意思もなく生き続けるのは，人間の生き方ではない。 ○　主治医や高等裁判所が反対した理由はなぜでしょうか。 ・いつか意識が戻るかもしれない。 ・意思がなくとも人間は生きたいと思うはず。 ・カレンさんの生きる権利を奪ってしまうことになる。 ・医師は助けるのが仕事。 ・法律の問題もあるので許可できない。 4　自分事として考え，グループで意見を交流する。 ○　あなたはどうすべきだと思いますか。 ・両親の希望どおりにすべき。 ・カレンさんが，どう思っているかは，分からないので難しい。 ・主治医の言うとおり，できるだけのことをしてあげたほうがいい。 ・もっとたくさんの人の意見を聞いたほうが良い。 5　資料に戻り，考えを深める。 ◎　生命維持装置を外した後，カレンさんは何を考えていたのでしょうか。 ・尊厳死を選択してくれて良かった。	・立場によって生命倫理に対する考え方が異なることに気付かせるために，カレンさんの両親，主治医，裁判所，それぞれの立場から，その思いや考え，背景についてなどを考えさせる。 ・中心発問で考えさせるため，カレンさんがどう思っていたかについては最後まで触れない。 ・考えを深めさせるために，主治医や裁判所については，反対理由の背景にある立場や役割も視点として持たせる。 ・考えが深まらない時の問い返し ・主治医の立場として求められるのは何でしょうか。 ・法律的には大丈夫ですか。 ・意思を伝えられない状態ですが，カレンさんにはどのような権利がありますか。 ・自分としての意見をより深いものにするため，両親，主治医，裁判所の意見と考え，その背景にあるものを再確認する。 ・グループで意見交換をすることにより，多面的・多角的な意見に触れさせる。 ・視覚的に分かりやすくするために，ホワイトボードと心情円を活用する。その際，外すべきかどうか悩むことが予想されるので，心情円を活用し曖昧な心の状態を視覚化する。 ・様々な立場からの多面的・多角的な意見を踏まえ，カレンさん自身について改めて考えさせる。

	・苦しいけれど，家族と長くいるため，できるだけのことをしてほしかった。 ・自分の幸せについてみんなで考えてくれて感謝している。 ・自分を愛してくれる家族のため，少しでも長く生きよう。	・考えが深まらない時の問い返し ・自分がカレンさんならどのように思うでしょうか。 ・様々な人たちの意見をカレンさんはどのように受け止めているのでしょうか。
終末5分	**6　命についての理解を深める。** ○　生命を考える上で大切なことは何でしょうか。 ・自分や家族の命について，自分の考えをしっかりと持ち，周りの考えも尊重する。 ・何が一番大切なのかをみんなで考える。 ・一人の命は多くの人々の思いで支えられている。 ・生命倫理についてもっと関心を持ち，自分なりに考えを深めておく。	・生命倫理について考えを深めるために，厚生労働省のアンケートを紹介する。人生の最終段階において，医療措置を望まない人が多い結果になっているが，望む人も確実にいることに目を向けさせる。

【評価】

生命倫理の理解を基に，自他の生命の尊重について，問題解決的な学習を通して，多面的・多角的に考えようとしていたか。

5　他の教育活動との関連



6　補充・深化・統合の視点【深化】

この教材は，「生命の尊さ」をねらいとして扱っている。現代的な課題である生命倫理は難しい課題であり，人によって答えが変わる問題でもある。医療や科学技術が生と死にどう関わるかということも視点に入れながら考えることで，生命とは何か，生と死をどのように捉えていくかより考えを深めたい。

7　教材分析・発問構成

あらすじ	気付かせたい考え	発　問	予想される反応
友人のパーティーで飲酒後，精神安定剤を服用し，意識を失う。両親は介護を続けるが全身をチューブでつながれた娘の状態は見るに耐えず，延命措置を打ち切るよう主治医に申し出る。	生きさせたい思いはあるものの，生命維持装置で生きている娘のつらさを考え，悩んだ末に医療措置の打ち切りを申し出た両親の思いに気付かせる。	カレンさんの両親は，なぜ，医療措置を打ち切るよう求めたのでしょうか。	・チューブにつながれて生きている娘を見ていられない。 ・苦しみから解放させてあげたい。 ・意思もなく生き続けるのは，人間の生き方ではない。
⇩			・いつか意識が戻るかもしれない。 ・意思がなくとも人間は生きたいと思うはず。 ・カレンさんの生きる権利を奪ってしまうことになる。 ・医師は助けるのが仕事。 ・法律の問題もあるので許可できない。
主治医に医療措置の打ち切りを拒否される。その後，州の高等裁判所に医療措置の打ち切りを認めてもらうよう申し出るが却下される。	主治医，裁判所がなぜそのような判断をしたのか，それぞれの立場や役割等，判断の根拠となるものについて考えを深める。	主治医や高等裁判所が反対した理由は，なぜでしょうか。	
⇩			・両親の希望どおりにすべき。 ・カレンさんが，どう思っているかは，分からないので難しい。 ・主治医の言うとおり，できるだけのことをしてあげたほうがいい。 ・もっとたくさんの人の意見を聞いたほうが良い。
州の最高裁判所に上告，医療を拒否する権利が家族に認められる。	最高裁の判決から，カレンさん自身の権利や思いについても考える視点を持たせたい。 自分ならどうするか考えさせる中で，多面的・多角的な意見に触れさせる。	あなたは，どうすべきだと思いますか。	
⇩			
生命維持装置を外すが，カレンさんは自力で呼吸を続け，約10年間生き続けた。	カレンさん自身の思いを推察させることにより，家族をはじめ様々な人の思いをどう受け止めるか，一人の命をどう考えるかについて考えを深める。	**＜中心発問＞** 生命維持装置を外した後，カレンさんは何を考えていたのでしょうか。	・尊厳死を選択してくれて良かった。 ・苦しいけれど，家族と長くいるため，できるだけのことをしてほしかった。 ・自分の幸せについてみんなで考えてくれて感謝している。 ・自分を愛してくれる家族のため，少しでも長く生きよう。
		生命を考える上で大切なことは何でしょうか。	・自分や家族の命について，自分の考えをしっかりと持ち，周りの考えも尊重する。 ・一人の命は多くの人々の思いで支えられている。 ・生命倫理についてもっと関心を持ち，自分なりに考えを深めておく。

8　教材分析・発問構成

教師：教科書，ワークシート，TV，PC，ホワイトボード，マグネット（人数分），心情円

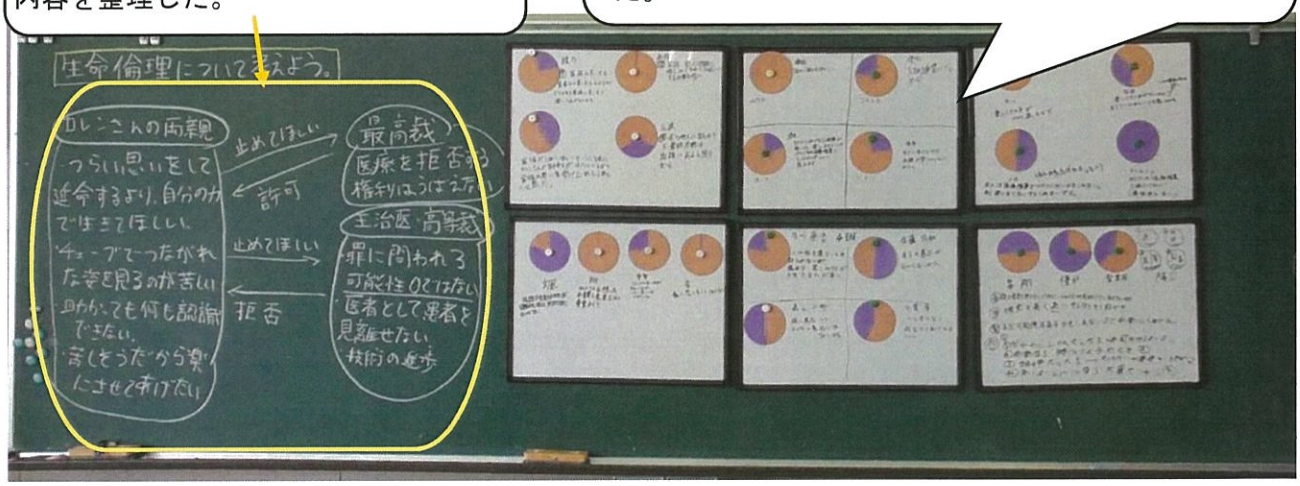
生徒：教科書，心情円

9　実践の記録（○成果，●課題）

【板書】

カレンさんの両親，主治医，裁判所の立場や考え方が分かるよう図式化し，内容を整理した。

グループでの話合いにホワイトボードを活用した。また，心情円を利用することで，個人としての意見を表示し，多様な考え方を視覚的に分かりやすくした。



(1)　導入

教材および主題への興味・関心を高めた

「生命倫理」という聞き慣れないテーマであったため，スライドを使って生命倫理について簡潔に説明を行った。日本と海外における，尊厳死の意味の違いや尊厳死に関わる法制化について等の説明を加え，そのきっかけになった事件として本教材を紹介した。

○　説明が難しい「生命倫理」についても，スライドを活用することで，短時間で理解させることができた。資料があったので分かりやすかったとの感想もあった。

(2)　展開

グループ活動を通して，多面的・多角的な考えに触れさせた

グループ活動の前に，心情円で自分の考えを表現させた。青が「生命維持装置を外す」，赤が「外さない」，迷っている場合は赤と青を半分にするよう指示した。その上でグループになり，心情円を基に意見を交流した。

○　ホワイトボードに記入することにより，班ごとの意見を表示しやすくなったほか，心情円により個人の意見を可視化することができた。各班で作成したホワイトボードを黒板に貼ることにより，多面的・多角的な意見を共有することができた。

○　自分の考えを持つことが苦手な生徒がいるが，心情円を活用したことで，自分の考えを明確に表現し，意見を述べることができていた。

○　カレンさんの両親，主治医，裁判所の立場を踏まえて考えさせ，最後に，「カレンさん自身は生命維持装置を外した後，何を考えていたのでしょうか」という中心発問につなげたことにより，どうすべきだったのかについて深く考えさせることができた。

●　グループ活動において，意見を発表し合って終わっている状況があった。個人の意見に対してグループのメンバーが深く理由を追及していくような話合いになるような声掛けや支援，普段から質問し合わせる指導が必要であると感じた。

(3)　終末

○　感想を書くだけの指示であったが，自分ごととして捉えて考えている生徒がいた。

○　様々な立場からの意見を基に話合いを行ったため，多面的・多角的に考え，視野を広げることのできた生徒もいた。

● 時間配分がうまくいかず，振り返りの時間を十分に確保できなかった。

● 厚生労働省のアンケートは活用できなかった。現実の事として一般の人がどのように考えているのかを知ることで，自分事として捉え，考えを深めさせたかった。

児童・生徒の感想

・今日の考えることはすごく難しいことだったけれど，もし，自分の知り合いや友達などがカレンさんのような状態になったら真剣に考えられるのかなと思いながら考えることができた。
・生死がどうあるべきか話し合う機会がなかったからとてもやりがいがあった。いろんな意見があって面白いと思った。
・カレンさんが自分の家にいる猫に当てはまったので，自分の猫がそうなったら自分はどうするかと考えた。
・医療措置を外す判断は私にはなかったから，将来への考えが広まった。
・議題が難しいと思った。難しい分グループの人々と真剣に話し合うことができたので楽しかった。自分が両親に立場になって考えると難しい。
・「生命倫理」って難しい・・・。でもこの問題は正解が無い気がする。両親も医師も裁判官もカレンさんがどの選択をすれば幸せなのかを考えて主張しているし，でも，死を選ぶのが幸せなのか，生きることを選ぶのが幸せなのか，それを決めるのはやっぱり本人だし。立場によって意見も考え方も違ってくると思う。正解は無いからこそよく話し合って自分たちが決めた決断が一番だと信じればいいと思う。あー，難しい。あと，みんなが思うよりよっぽど命って尊い。